

青山學院女子短期大學

紀 要 総 目 次

(自 第1輯 ～ 至 第54輯)

第 1 輯 昭和27年(1952) 7月刊

紀要の創刊を祝して	院長 豊 田 実
紀要の創刊に際して	学長 向 坊 長 英
平安朝以前に於ける辞書	川 瀬 一 馬
近世初期に於ける前期的資本の諸形態〔その一〕	保 坂 栄 一
——(南独フッガー家の場合)——	
The Blessed Damozel 「昇天聖女」	向 山 泰 子
The Failure of Modernism in Angel Clare (A Sidelight on Hardy's "Tess of the D'Urbervilles")	菊 地 裕
食肉の消化率に及ぼす加熱の影響	野 村 万 千 代
——研究の準備——	
パンクレアチンの製法に就いて	

第 2 輯 昭和28年(1953) 9月刊

ウェスレイ・メソジズムの本質(一)	向 坊 長 英
——歴史的基督教の綜観者・ウェスレイ——	
和泉式部日記は藤原俊成の作	川 瀬 一 馬
「清教徒的」商人論	保 坂 栄 一
E. A. Poe の詩に現はれた死と愛の聯合について	江 口 裕 子

第 3 輯 (記念号) 昭和29年(1954) 11月刊

記念号発刊の辞	学長 向 坊 長 英
ワーズワースの詩『靈魂不滅の暗示』	豊 田 実
——その詩と註解——	
ウェスレイ・メソジズムの本質(二)	向 坊 長 英
中世に於ける金言集について	川 瀬 一 馬
奈明天皇の業績	馬 越 宮

芥川龍之介と古典	中 野 博 雄
ギリシャ神話とギリシャ人の特質	江 口 裕 子
— 英文学研究の一過程として —	
ミルトンの女性観	西 島 正
訳 詩 三 篇	菊 地 裕
Studies on the Denaturation of Proteins (I)	島崎通夫・浅野敬子
— with regard to the Iodination of Proteins —	

第 4 輯 昭和30年 (1955) 11月刊

歴史的事実の問題	小田島 嘉 久
— 宗教的事実による歴史的事実の基礎付けへの試み —	
金春大夫家系図考	川 瀬 一 馬
— 喜勝茂没以後 —	
与謝野鉄幹の詩	中 野 博 雄
Methylene Blue 染布の耐光堅牢度について (その一)	深谷 浩・柳江智子
— 染色品の耐光堅牢度に関する研究第一報 —	

第 5 輯 昭和31年 (1956) 3月刊

歴史的事実の問題 (其の二)	小田島 嘉 久
— 宗教的事実による歴史的事実の基礎付けへの試み —	
新札往来と尺素往来	川 瀬 一 馬
— 古往来の研究 (その一) —	
A PLAY OF PASSION	向 山 泰 子

第 6 輯 昭和31年 (1956) 11月刊

ウエスレイ・メソジズムの本質 (三)	向 坊 長 英
第四章 ウエスレイとメソジスト教会	
歴史的事実の問題 (其の三)	小田島 嘉 久
— 宗教的事実による歴史的事実の基礎付けへの試み —	
金春家庶流系図考	川 瀬 一 馬
ヘミングウェイと女性	松 宮 薫 子

第 7 輯 昭和32年 (1957) 3月刊

快言抄について	川 瀬 一 馬
— 古往来の研究 (その二) —	
コールリッチ「老水夫のうた」に関する一考察	石 田 加寿子
— 一七九八年版と一八一七年版との比較 —	
織布の二次元的変形	深 谷 浩
— 直交異方性板としての取扱い —	

第 8 輯 昭和32年(1957)11月刊

中世イギリス牧羊業の展開	保坂栄一
色葉字類抄「辞字」考	青木孝
中務内侍日記の鎌倉鈔本(断簡)に就いて	川瀬一馬
バイロン作『サダナペーラス』の歴史的背景	向山泰子
蛋白質変性に関する研究(二)	島崎通夫
— 沃素化蛋白質の紫外部吸収に及ぼす加熱の影響について —	

第 9 輯 昭和33年(1958)3月刊

観阿弥の申楽	川瀬一馬
芥川龍之介と漱石・鷗外	中野博雄
「ハムレット」についての一考察	西島正
剪断変形による織布の挫屈(第一報)	深谷浩

第 10 輯(記念号) 昭和33年(1958)11月刊

第十輯記念号の発刊に際して	学長 向坊長英
静嘉堂文庫蔵 山田本古事記考	青木孝
— 鈴鹿登本・猪熊本との関係 —	
竹取物語が意味するもの	馬越宮
中世における辞書の二三について	川瀬一馬
— 附、大永四年鈔本金句集 —	
ジェイムズ・ジョイスの長篇小説における原罪の意識と母性像	町野静雄
スタインベックの一考察	松宮薰子
— 彼のヒューマニズムと自然描写について —	
蛋白質変性に関する研究 Ⅲ	島崎通夫
— 尿素存在下における Egg Albumin の加熱変化について —	
凝視点と仮現運動	米沢俊治

第 11 輯 昭和34年(1959)6月刊

「桂離宮」管見	川瀬一馬
— 附、佐野紹益の廳草のこと —	
古事記に見える助詞「に」の古用法について	青木孝
漱石と節・鏡花	中野博雄
エドモンドスペンサーの詩にあらわれたる愛の概念、その内容と釈解	松山正男
バイロン作「サダナペーラス」の人物	向山泰子

第 12 輯(記念号) 昭和34年(1959)11月刊

紀要記念号発刊に際して	院長 古坂崑城
-------------	---------

紀要第十二輯の発刊に寄せて	学長 向 坊 長 英
学問（科学及哲学）と信仰との関係についての考察（上）	小田島 嘉 久
桂庵和尚家法倭点について	川 瀬 一 馬
源氏物語竹川の巻試論	馬 越 宮
——その異質性について——	
フランクリンの「航海日誌」に就ての一考察	黒 野 清
ヴィクトリア朝の英文学にあらわれた愛の概念	松 山 正 男
——「女性崇拜」とその社会的背景——	
長野県における子守教育（一）	林 三 平
——日本における義務教育制度の歴史的考察 一九〇〇年～一九一五年——	
知覚におけるいわゆる価値に関する実験的研究（その一）	米 沢 俊 治
骨化作用に於ける糖類の影響について	野 村 万千代
ビタミンの自己酸化に及ぼす蛋白質（Egg Albumin）の影響について	島崎通夫・加藤福子

第 13 輯 昭和35年（1960）7月刊

口絵 本阿弥光悦筆百人一首

大漢和辞典の完刊に際して	諸 橋 鞆 次
本阿弥光悦の小倉山荘色紙和歌（百人一首）	川 瀬 一 馬
「秋」（芥川龍之介）に対する諸家の批評	中 野 博 雄
高校卒業生女子の計量値処理能力	深谷 浩・松尾登美子
——家庭生活と計量・第一報——	

第 14 輯（記念号） 昭和35年（1960）11月刊

荒牧教授近影 荒牧教授略歴

十周年記念号によせて	院長 大 木 金次郎
記念号発刊に寄せて	学長 幸 田 三 郎
学問（科学及哲学）と信仰との関係についての考察（下）	小田島 嘉 久
日本における義務教育制度の歴史的考察（二）—1900～1915年—	林 三 平
——学齡児童保護対策と製糸工場特別教授を中心として——	
庭訓往來の仮名抄について	川 瀬 一 馬
——古往來の研究（その三）——	
竜門文庫蔵 平瀬本古事記考	青 木 孝
——前田家本系統本の系統と価値——	
夕 顔 試 論	馬 越 宮
「オセロウ」について	西 島 正
T. S. エリオットにおける象徴主義	町 野 静 雄
カーライルのシェイクスピア崇敬	菊 地 裕

- ウィラ・キャザーについての覚書……………松 宮 薫 子
 青山学院女子学生の最近十年間における栄養摂取量の推移……………野 村 万千代
 —食品群別による—
 Trypsin の加熱変性と Sodium dodecylsulfate の影響……………島 崎 通 夫
 目分量の精度(その一)……………深谷 浩・松尾登美子
 —家庭生活と計量・第二報—
 R. L. スティーヴンスンの文体的特徴……………荒 牧 鉄 雄
 —初期の二篇を中心として—

第 15 輯(記念号) 昭和36年(1961)11月刊

- 源氏物語の愛欲の構想について……………馬 越 宮
 —前編第二部を中心として—
 多和文庫蔵 曼殊院本古事記考……………青 木 孝
 —鈴鹿登本・山田本・輪王寺本との関係—
 古今伝授について……………川 瀬 一 馬
 —細川幽斎所伝の切紙書類を中心として—
 「玄鶴山房」の批評(一)……………中 野 博 雄
 鍛とる詩人(第一部)……………青 木 範 夫
 —小諸なるスコットランド—
 狂 気 の 美 学……………松 山 正 男
 —テニスの独白詩『モード』について—
 「限界哲学」(Grenzphilosophie) 試論……………小田島 嘉 久
 馬越教授の還暦に当って……………川 瀬 一 馬
 過 ぎ 来 し 方……………馬 越 宮
 家庭における計量の実態……………深谷 浩・松尾登美子
 —家庭生活と計量・第三報—

第 16 輯 昭和37年(1962)11月刊

- 観阿弥の物真似論……………川 瀬 一 馬
 竜門文庫蔵 鴨本古事記考……………青 木 孝
 —延佳校本書入れの吟味とその意義—
 グレアム・グリーン論……………町 野 静 雄
 鍛とる詩人(第二部)……………青 木 範 夫
 —都のかたをながむれば—
 Women Close to Hemingway……………松 宮 薫 子
 A Study of Lord Byron……………向 山 泰 子
 —Oriental Influences on Setting of His Early Romances—
 Dibenzoyl thiamine の定量法について……………西 田 寿 美
 目分量の精度(第二報)……………深谷 浩・中嶋登美子
 家庭生活と計量・第四報—

第 17 輯 昭和38年(1963)11月刊

日本印刷文化史上における菱川師宣	川 瀬 一 馬
色葉字類抄豎字門語彙の出入について	青 木 孝
——三巻本と十巻本の比較——	
中村ヨシ教授の御退任に際して	島 崎 通 夫
サリンジャーの二つの短篇小説について	松 宮 薫 子
強化米の水洗に関する研究	西 田 寿 美
目分量の精度(第三報)	深谷 浩・中嶋登美子
——家庭生活と計量・第五報——	

第 18 輯(記念号) 昭和39年(1964)11月刊

日本印刷文化と書体並びに料紙	川 瀬 一 馬
吾妻鏡に見える謙譲の「令(シム)」	青 木 孝
改訂幼稚園教育要領の特質	林 三 平
教育的スロイドの成立と発展について	松 崎 巖
芥川竜之介の言及したカーライルの詩的精神	菊 地 裕
Daniel Defoe の小説二篇について	坂 井 晴 彦
強化食の研究	西 田 寿 美
——カルシウム存在下における製パン工程中のB ₁ 変化について——	
トリプシンの尿素変性についての一考察	島 崎 通 夫
——活性の回復に及ぼす沃素の影響——	

第 19 輯(記念号) 昭和40年(1965)11月刊

開学十五周年記念号によせて	院長 大 木 金次郎
開学十五周年記念号の発刊に際して	学長 幸 田 三 郎
学 問 論(覚え書き)	小田島 嘉 久
夢窓国師と庭園	川 瀬 一 馬
万葉集“篇外”用法の一考察	青 木 孝
——以(もって)字の用法について——	
国家体制と教育政策	林 三 平
——明治教育政策史覚書——	
アテナイにおける在留外人の訴訟能力	馬 場 恵 二
北政三国における統一学校制度について	松 崎 巖
Lovelace 登 場	坂 井 晴 彦
——Clarissa Harlowe の一面——	

第 20 輯 昭和41年(1966)11月刊

平安朝における政治思想	川 瀬 一 馬
-------------------	---------

「吾妻鏡」寛永板本付訓清濁考	青 木 孝
——特異な読み癖を中心として——	
読書人の育った環境	野 村 喬
——内田魯庵伝ノート(一)——	
スウェーデン教育に関する理解と誤解——覚え書	松 崎 巖
Tom Jones における Fielding の知的コントロールについて	坂 井 晴 彦
死 への 誘 い	稲 沢 秀 夫
——トルーマン・カポーティの二つの短編をめぐって——	
味と無機成分について	西田寿美・熊沢光子
——だし汁中の無機成分(第一報)——	
不織布の汚染性・洗浄性について(1)	阿部幸子・首藤晋子
自第一輯至第二十輯論文索引	

第 21 輯 昭和42年(1967)11月刊

吾妻鏡に見える「御」(ギョ)字の特殊用法	青 木 孝
——「たまふ」(尊敬補助動詞)に当ててるもの——	
貴嶺問答について	川 瀬 一 馬
——古往来の研究(その四)——	
光 源 氏 の 変 貌	河内山 清 彦
——「野分」の巻を支点とした源氏物語試論——	
不知庵と「女学雑誌」	野 村 喬
——内田魯庵伝ノート(二)——	
川瀬一馬教授の紫綬褒章受章を祝して	幸 田 三 郎
川瀬一馬教授著作論文略目録	
Language and the Ethical in the Thought of Kierkegaard	小 原 信
『ハムレット』におけるキリスト教的感覚	菊 地 裕
——第一独白を中心として——	
英語構文力テスト作成の試み	伊 部 泰 子
——Chomsky の文法理論に沿って——	

第 22 輯 昭和43年(1968)11月刊

平安時代の言語作品に見出される子供のことば使いについて	森 野 宗 明
吾妻鏡の成立に関する一試論	青 木 孝
——夢想告・託宣の記事をめぐって——	
夕 霧 の 役 割	河内山 清 彦
——「若菜」から「幻」まで(その一)——	
大英博物館の古活字版	川 瀬 一 馬
民 友 社 と 不 知 庵	野 村 喬
——内田魯庵伝ノート(三)——	
サローヤンの描く子供の世界	高 島 敦 子

- 「教育持論」における国民教育論の動向……………林 三 平
 —明治教育政策史覚書(二)—
- The Ethical and the Conceptual: the Case of Kierkegaard…………小 原 信
 “The Fall” in Five Modern Novelists……………P. J. パタソン
- Lord Byron の文体……………向 山 泰 子
- 侵入者と原住民……………稲 沢 秀 夫
 —イーディス・ウォートン論(一)—
- Four Quartets における思想と imagery について……………笠 原 恵
 言語心理学の一動向(I)……………米 沢 俊 治
- 外国教育の影響に関する比較研究……………松 崎 巖
 —助教制の北欧諸国への移入について〈覚え書〉—

第 23 輯 昭和44年(1969)11月刊

- 吾妻鏡構文上の一特色……………青 木 孝
 —述語の上に、助字「於(オ)」をつけて補足語を提示する型—
- 「聚文韻略」考……………川 瀬 一 馬
- 『文学一斑』と『罪と罰』……………野 村 喬
 —内田魯庵伝ノート(四)—
- 作家への道……………坂 井 晴 彦
 —Samuel Richardson の *Familiar Letters* について—
- カーライルのフランス革命におけるルイ十五世の描写……………菊 地 裕
 ギリシアの影響を受けた Byron の後期の詩……………向 山 泰 子
- 既成上流社会への反抗の限界について……………稲 沢 秀 夫
 —イーディス・ウォートン論(二)—
- 言語問題と教育についての一比較考察……………松 崎 巖
 —フィンランドとノールウェーの場合—
- 短大における保育者養成のための音楽教育……………高 橋 好 子
 —幼稚園実習との関連において—
- 青山学院女子短期大学学生の栄養摂取量……………野 村 万千代
 —最近20年間における推移—

第 24 輯(記念号) 昭和45年(1970)11月刊

- 開学二十周年記念号によせて……………院長 大 木 金次郎
- 短期大学と学問研究……………学長 幸 田 三 郎
- 観阿弥の「花伝書」論……………川 瀬 一 馬
- 「若 菜」巻の発端……………河内山 清 彦
 —秋山虔氏の「方法」の検証—
- 謙譲の補助動詞「聞ゆ」と「奉る」……………森 野 宗 明
 —一つの謙譲表現の発達段階説批判を中心に—
- 吾妻鏡に多く用いられる「云々(うんぐん)」の訓と用法……………青 木 孝

- マクベス劇の鳥、昆虫に関するフォーク・ロアについて……………山 口 義 郎
 Byron の *Childe Harold's Pilgrimage* に就て……………向 山 泰 子
 —過渡期の作、「前篇」を中心に—
 過去への回帰……………稲 沢 秀 夫
 —イーディス・ウォートン論(三)—
 E. M. Forster の創作態度について……………坂 井 晴 彦
 —E. M. Forster ノート(1)—
 英米における「落花枝に帰る」の句……………町 野 静 雄
 フランクリン父子の不和についての一考察……………黒 野 清
 Uno Cygnæus とフィンランドの初等教育制度の成立過程……………松 崎 巖
 青山学院女子短期大学 研究成果総覧

第 25 輯 昭和46年(1971)11月刊

- 慶長初年刊雲母摺古活字版徒然草……………川 瀬 一 馬
 —徒然草の最古版本—
 紫 上 の 晩 年 (上)……………河内山 清 彦
 —女性哀史的発想を排す—
 字鏡集白河本(都立日比谷図書館蔵)と応永写本(前田家尊経閣文庫蔵)との関係について
 —和訓の下に散見する「正」という注記をめぐる—……………青 木 孝
 ミラボーの描写に示されたカーライルの技法……………菊 地 裕
 Vaughan's Concerns for Man……………向 山 泰 子
 『イーサン・フローム』をめぐる……………稲 沢 秀 夫
 —イーディス・ウォートン論(四)—
 現実とファンタジー……………坂 井 晴 彦
 —E. M. Forster ノート(2)—
 『細雪』『雪国』を通して見た日本語と英語の比較研究……………高 島 敦 子
 ジクロロイソシアヌル酸系漂白剤の漂白効果……………阿 部 幸 子
 —洗剤添加の影響—
 比較教育学の課題と方法に関する一考察……………松 崎 巖
 —教育における文化的バイアスについての覚え書—
 青山学院女子短期大学 研究成果一覧

第 26 輯 昭和47年(1972)11月刊

- 「いほぬし」の現存最古写本について……………川 瀬 一 馬
 紫 上 の 晩 年 (中)……………河内山 清 彦
 —女性哀史的発想を排す—
 内閣文庫蔵 北条本吾妻鏡訓点考……………青 木 孝
 —仮名の傍訓を中心として—
 D. G. Rossetti の譚歌……………向 山 泰 子
 —The Staff and Script の中世思想—

『真夏の夜の夢』の中に現れるフォーク・ロアについて	山口 義 郎
リアリズム論をめぐって	稲 沢 秀 夫
—イーディス・ウォートン論(五)—	
『英文法汎論』のゆくえ	最 上 雄 文
国民性と翻訳	高 島 敦 子
—英文『細雪』に表われた日本人の特性—	
言語と教育に関する比較教育学的一考察	松 崎 巖
—N. Hans の the Linguistic Factor 再考—	
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第 27 輯 昭和48年(1973)11月刊

日本書誌学と国語国文学	川 瀬 一 馬
紫上の晩年(下)	河内山 清 彦
—女性哀史的発想を排す—	
二人称の〈オレ〉について	森 野 宗 明
—鎌倉時代を中心に—	
吾妻鏡に見える「是(これ)」の文章法的機能について	青 木 孝
玉座抄の副詞(一)	出 雲 朝 子
翻訳家時代と『文学者となる法』	野 村 喬
—内田魯庵伝ノート(五)—	
セアラ・オーン・ジュエットのおかしみと自然	稲 沢 秀 夫
「地方色文学」からの解放のために—	
ヴィトゲンシュタインにおける言語と哲学	小 原 信
クローディアスと末子相続制	山 口 義 郎
The Noble Othello の復活	森 泉 弘 次
Catharine Beecher における「女性の真の職業」のための教育	E. J. クラーク
ANCRA, GÆSTAN など	最 上 雄 文
—魔 語 点 描—	
夏目漱石と現代人の諸問題	高 島 敦 子
—英文『こころ』研究—	
衣服設計を目的とした本学院の幼児・児童・生徒の身体計測結果	磯 谷 藤 枝
社会的移動と教育に関する比較教育学的一試論	松 崎 巖
—スウェーデンのケースより(1)—	
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第 28 輯 昭和49年(1974)11月刊

吾妻鏡に見える「處(処)・所(所)」両字の使い分けについて	青 木 孝
—接続助詞的に用いられた「處」字を中心として—	
細川幽斎年譜稿(一)	林 達 也

玉塵抄の副詞(二)	出雲朝子
— 擬声擬態語の語形について —	
曾丹集中の「三百六十首」の成立時期について	北村杏子
紫式部集の成立と流布(三)	河内山清彦
— 第二類古本系統の先行を論じて紫式部日記の首欠と日記歌の成立に及ぶ —	
エレン・グラスゴウ論	稲沢秀夫
A Study in Intellectual Liberation	E. J. クラーク
Macbeth 試論	森泉弘次
— <父と子>の悲劇として(1) —	
Byron の戯曲と Goethe の <i>Faust</i> と	向山泰子
— I. Manfred —	
A Room with a View における若干の表現形式の特徴について	坂井晴彦
— E. M. Forster ノート(3) —	
認識と行為——『死の床に横たわりて』論	佐藤澄子
夏目漱石と現代の諸問題(2)	高島敦子
— 英文『道草』研究 —	
非水系洗浄液中における汚染現象についての一考察	阿部幸子
— 基質への水及び界面活性剤の吸着の影響 —	
海藻成分の研究(昆布のヨウ素)	西田寿美
児童福祉施設の福祉機能について	斉藤謙
— 保育所保育をめぐる問題の検討(その1) —	
エリッヒ・フロムの愛の概念に関する若干の考察	鈴木有郷

第 29 輯 昭和50年(1975)11月刊

「庭訓往来(ていきんおうらい)」の語法(上)	青木孝
— 語彙・用字の分類とその特色 —	
細川幽斎年譜稿(二)	林達也
玉塵抄の国会図書館蔵本と叡山文庫蔵本について	出雲朝子
古今集の誹諧歌について	北村杏子
紫式部日記の形成	河内山清彦
— 宇津保物語の誕生記事との関係を中心に —	
『ジョンソン』とその周辺	野村喬
— 内田魯庵伝ノート(六) —	
A Defence of Thomas Hardy against Lina Wright Berle's Criticism: With Special Reference to <i>Tess of the D'Urbervilles</i>	菊地裕
Macbeth 試論	森泉弘次
— <父と子>の悲劇として(2) —	
Byron の戯曲と Goethe の <i>Faust</i> と	向山泰子
— II. Cain と <i>The Deformed Transformed</i> と —	
想像力と神話	新美澄子
— フォークナーの『アブサロム、アブサロム』の技法について —	

夏目漱石における東と西	高 島 敦 子
— 英文『草枕』研究 —	
シェイクスピアと人間嫌い	山 口 義 郎
青山学院女子短大生の栄養食品実態調査	西 田 寿 美
「ラインホルド・ニーバーにおける愛と正義の関係」	鈴 木 有 郷
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第 30 輯 昭和51年(1976)11月刊

「庭訓往来(ていきんおうらい)」の語法(中)	青 木 孝
— 副言(副詞・接統詞・連体詞)について —	
細川幽斎年譜稿(三)	林 達 也
古今集の誹諧歌について—承前	北 村 杏 子
朱雀院五十賀と密通事件をめぐる	河内山 清 彦
— 宇津保物語の影響,「六条院の崩壊」の問題など —	
父の死とその後始末	野 村 喬
— 内田魯庵伝ノート(七) —	
テス・ダービフィールドの素朴な信仰	菊 地 裕
— キリスト教と異教の混合 —	
「リチャード三世」における犠牲者達についての一考察	森 泉 弘 次
バーナード・マラマッドの喜劇性	新 美 澄 子
— 近代リアリズムの一方法としての彼の個性について —	
セルロース・ポリアミド粉末表面のぬれと界面活性剤の吸着について	阿 部 幸 子
明治期における保育者養成	阿 部 智 江
シュマルカルデン同盟の成立について	石 引 正 志
都市における成人講座受講者の学習行動に関する一考察	岩崎三郎・林三平・幸田三郎
— 新宿区における事例調査 —	
“Reinhold Niebuhr and His Modern Critics”	Yugo Suzuki
W. B. イェイツにおける「愛」と「死」	秋 山 照 男
— <i>The Death of Cuchulain</i> 覚書(1) —	
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第 31 輯 昭和52年(1977)11月刊

「庭訓往来(ていきんおうらい)」の語法(下)の(一)	青 木 孝
— 辞(助詞・助動詞・接頭語・接尾語)のうち助詞 —	
源氏物語論のために明晰・自立・真実を	河内山 清 彦
— 藤井貞和氏の妄評に駁す —	
「リア王」における悪の問題(一)	森 泉 弘 次
Lord Byron の <i>The Prisoner of Chillon</i> の構成	向 山 泰 子
ヘミングウェイ覚え書き	新 美 澄 子

音と意味	山口義郎
領邦君主と宗教改革	石引正志
——ヘッセン地方伯フィリップの場合——	
W. B. イェイツにおける「愛」と「死」	秋山照男
—— <i>The Death of Cuchulain</i> 覚書 (2)——	
専門図書館の存立基盤	前園主計
——組織体における情報需要の階層別考察——	
日本におけるキリスト教と社会主義	鈴木有郷
——木下尚江の場合(一)——	

第32輯 昭和53年(1978)11月刊

「庭訓往来(ていきんおうらい)」の語法(下)の(二)止	青木孝
——助動詞と接頭語・接尾語——	
紫式部日記成立論覚書	河内山清彦
——断片的記事竄入説・非首欠説批判——	
仲文集の一考察	北村杏子
——枕草子との関わりをめぐって——	
民友社との別れ	野村喬
——内田魯庵伝ノート(八)——	
内村鑑三における文体と論理	小原信
ブレイクの神	秋山照男
—— <i>The Fly</i> についての一考察——	
The Sensual Attractiveness and Barbaric Sincerity of Alec d'Urberville Much Depreciated	Y. Kikuchi
ユダヤの百合	新美澄子
——Bernard Malamud のユニークな世界——	
女性語と女性解放	高島敦子
マイクロ波加熱による食品の硬化現象について	肥後温子・島崎通夫
——パンの硬化と結合水の変化——	
マルティン・ブツァーと宗教寛容の問題	石引正志
日本におけるキリスト教と社会主義	鈴木有郷
——木下尚江の場合(二)——	
青山学院女子短期大学における体力診断テストの結果に関する一考察(その一)	多和はる・板垣美恵子
リア王における悪の問題(二)	森泉弘次
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第33輯 昭和54年(1979)11月刊

「明衡往来(めいこうおうらい)」に見える「蒙求(もうぎゅう)」関係語彙について	青木孝
---	-----

鎌倉時代における文語ア・ハ・ワ行下二段活用動詞とヤ行下二段活用動詞の活用混乱について	出雲朝子
「夕霧」巻の紫上の述懐をめぐる	河内山清彦
——源氏物語・紫式部日記の女性観との関連——	
藤原実方雑考	北村杏子
“God is Love” から “God si Love” へ	坂井晴彦
——E. M. Forster ノート(4)——	
《家族的》人間関係について	高島敦子
——英文『行人』研究——	
マルティン・ブツァーと農民戦争	石引正志
宗教社会学とドイツ精神史(1)	柳父圀近
——その一側面——	
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第 34 輯 (記念号) 昭和55年 (1980) 11月刊

アブラハム・リンカンの信仰	鈴木有郷
——苦悩と悲慘の間で (I)——	
「明衡往来 (めいこうおうらい)」の三巻本と二巻本系統諸本についての考察	青木孝
——特に書状の排列と出入を中心として——	
再びウ行四段活用動詞の音便形について	出雲朝子
ブレイクの哲学	秋山照男
——The Marriage of Heaven and Hell について——	
欧米におけるイントネーション研究の動向	安倍勇
トマス・ウルフの第一長編小説に於ける「死」について	宮内華代子
マラマッドの短編について	新美澄子
大栗川 (東京都) 集水域の農業的土地利用の移り変わり	中野和敬
高校生のソ連イメージ	渡辺良智
宗教社会学とドイツ精神史(2)	柳父圀近
——その一側面——	

青山学院女子短期大学 研究成果一覧

青山学院女子短期大学紀要 総目次

第 35 輯 昭和56年 (1981) 11月刊

アブラハム・リンカンの信仰	鈴木有郷
——苦悩と悲慘の間で (II)——	
「消息」と「往来」との語義の区別について	青木孝
ティーンエイジャーの可能表現	岡崎和夫
——着レル・出レルなどについて下接語からの検討を目的にした小さな調査から——	

ウェーバーにおける政治と学問	柳 父 圀 近
—ヴェルトフライハイトの問題として—	
欧米におけるイントネーション研究の動向	安 倍 勇
「リチャード二世」とその史实的背景	森 泉 弘 次
No-No Boy に於ける日系アメリカ二世の苦悩	酒 向 登志郎
日英文化における女性語の位置	高 島 敦 子
大豆調理における浸漬時間と浸漬温度	高橋文子・橋本慶子
ジャンバッティスタ・ヴィーコの 《Verum》と《Factum》について	前之園 幸一郎
幼稚園教育における保育形態の研究	志 賀 智 江
—二軸による保育活動の分析—	
文化多元主義の成立	足 立 康
—H. M. Kallen 研究覚え書き(3)—	
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第 36 輯 昭和57年(1982)11月刊

アブラハム・リンカンの信仰	鈴 木 有 郷
—苦悩と悲慘の間で(Ⅲ)—	
光源氏像の変容	藤 本 勝 義
—柏木・女三宮密通と光源氏の論理構造—	
「嘉保元年八月十九日関白師実歌合」をめぐる	北 村 杏 子
—源経信と信濃—	
石川啄木研究資料稿	岡 崎 和 夫
—歌稿ノート『一握の砂以後(四十三年十一月末より)』と投稿歌(上)—	
ステイヴン・クレインの『赤色武功章』	高 橋 俊 行
—主人公、ヘンリー・フレミングにおける怯懦と勇氣に就いて—	
<c'est> と <il est> の交替に関する覚え書き	鈴 木 律 子
シャーロットのために	細 越 和 子
—H. ジェイムズの『黄金の盃』をめぐる—	
「リチャード二世」の劇的言語 その一	森 泉 弘 次
—ヘンリー・ボリングブロックとトマス・モウブレイ—	
ヘミングウェイの自然	新 美 澄 子
As if —clause の語法について	矢 口 正 巳
—独立用法, その他—	
マイクロ波加熱にともなう脂質抽出率の低下原因について	肥後温子・島崎通夫
ファシズムと教育	前之園 幸一郎
—「学校憲章」の成立をめぐる—	
マス・コミュニケーションの効果の再検討	渡 辺 良 智

青山学院女子短期大学 研究成果一覧

第 37 輯 昭和58年(1983)11月刊

- 玉座抄叡山文庫本におけるオ段長音の開合の混乱について……………出 雲 朝 子
 石川啄木研究資料稿……………岡 崎 和 夫
 — 歌稿ノート『一握の砂以後(四十三年十一月末より)』と投稿歌(下) —
 H・ジェイムズの「視点」について……………芦 原 和 子
 —『ねじの回転』の場合—
 古今集歌「恋せじと御手洗川にせし禊……」をめぐって……………藤 本 勝 義
 —「新撰髓脳」「源氏物語」等の享受方法—
 ワーズワスの信念……………秋 山 照 男
 —Immortality Ode をめぐって—
 青山学院女子短期大学における体力診断テストの結果に関する一考察(その二)
 ……………多和はる・吉成啓子・井狩芳子・鈴木美恵子・大西千恵子
 「リチャード二世」の劇的言語 その二……………森 泉 弘 次
 —リチャードとジョン・オブ・ゴント—
 生誕の家と湖畔の家……………新 美 澄 子
 —ヘミングウェイの「家」に関する一試論—
 言語観の日英比較……………高 島 敦 子
 —《事の端思想》対《ロゴス精神》—
 セネカの教育思想……………前之園 幸一郎
 —Ad Lucilium epistulae morales を中心にして—
 所有権の経済分析(その一)……………熊 谷 彰 矩
 ゲートキーパーとゲートキーピング……………渡 辺 良 智
 青山学院女子短期大学 研究成果一覧

第 38 輯 昭和59年(1984)11月刊

- アブラハム・リンカンの信仰……………鈴 木 有 郷
 — 苦悩と悲惨の間で(IV) —
 中 務 内 侍 日 記 論……………藤 本 勝 義
 — その世界と執筆契機 —
 啄木の歌稿ノート『一握の砂以後
 (四十三年十一月末より)』にみえる○マーク……………岡 崎 和 夫
 — 筑摩書房版全集にも反映されなかったひとつの事実について —
 メルヴィルの『ビリー・バッド』……………高 橋 俊 行
 — ヴィア艦長の問題 —
 「リチャード二世」の劇的言語(その三)……………森 泉 弘 次
 — 歴史劇における〈不安と怖れ〉の構造 —

<i>Dangling Man</i> の実存主義的解釈をめぐって	新 美 澄 子
古代ローマ人の子ども観	前之園 幸一郎
—— <i>infans</i> 概念の成立をめぐって——	
所有権の経済分析(その2)	熊 谷 彰 矩
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第 39 輯 昭和60年(1985)11月刊

朱 雀 院 論	藤 本 勝 義
——源氏物語第二部を視座として——	
藤 原 相 如 伝 粗 描	北 村 杏 子
志賀直哉・知と観念の指向性	栗 坪 良 樹
——初期作品の問題について——	
古今集、四三・四四番歌攷	岡 崎 和 夫
ヘンリー・ジェイムズの芸術家像	芦 原 和 子
機能的な英語教育・コンピュータ通信機能を利用した実践	三宅なほみ・杉本 卓
天草版平家物語における句読点の用法	出 雲 朝 子
Adapting the Natural Approach to the	
College EFL Classroom in Japan	Sandra S. Fotos
「アテネのタイモン」試論(その一)——タイモンの幻想について	森 泉 弘 次
虚構の星—— <i>Mr. Sammler's Planet</i> 私論	新 美 澄 子
Applying Schema Theory in the Japanese College	
English as a Foreign Language Classroom:	
How to Comprehend More by Reading Less.	Jeanne M. Wolf
衣服設計のための身体計測法の検討	磯 谷 藤 枝
コロロディにおける〈子どものイメージ〉	前之園 幸一郎
マルティン・ブツァーとアウクスブルクの宗教改革	石 引 正 志
明治における宅地所有の状況と貸地貸家経営(その一)	加 藤 由利子
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第 40 輯(記念号) 昭和61年(1986)11月刊

記念号によせて	院長 大 木 金次郎
「紀要」四十号を記念して	学長 島 崎 通 夫
源氏物語の物忌	藤 本 勝 義
——紫式部と陰陽道信仰——	
安法法師集の人々など	北 村 杏 子
芭蕉・徂徠の伝記	野 村 喬
——内田魯庵伝ノート(九)——	

死と美と愛	芦原和子
—『死者たちの祭壇』をめぐる—	
現代アメリカ神学の特徴と課題	鈴木有郷
—ハーヴィー・コックスを手がかりに—	
Attitude and Motivation	Colleen A. Bauman
市販洗剤中の陰イオン界面活性剤の生分解性	阿部幸子
電子レンジと加熱むら	肥後温子・島崎通夫
女子短期大学生の食生活 (1)	石井孝彦
—栄養素摂取に及ぼす居住形態と食習慣の影響—	
L-リンド酸の味覚	谷本信也
明治における宅地所有の状況と貸地貸家経営 (その2)	加藤由利子
人物情報の処理におけるステレオタイプの影響	外山みどり
国際ニュースの構造	渡辺良智
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第41輯 昭和62年(1987)11月刊

存在と意識	橋本典子
—(il y a)とhypostase—	
源氏物語と陰陽道信仰	藤本勝義
—天変地異、占・祓等をめぐって—	
『玉座抄』の東大国語研究室蔵本について(一)	出雲朝子
宮本輝・生と死の物語	栗坪良樹
—〈川三郎作〉の成立について—	
『くれの廿八日』と社会小説論の季節	野村喬
—内田魯庵伝ノート(十)—	
「物語り」から「小説」へ	芦原和子
—ホーソンとジェイムズ—	
祝祭空間に生きるピカロ	新美澄子
—『オーギー・マーチの冒険』—	
Alternatives in Teaching English Grammar: An Overview of	
Approaches and Some Suggestions for Lesson Design.....Sandra S. Fotos	
「バビロン再訪」試論	宮内華代子
「アテネのタイモン」試論(その二)	森泉弘次
—タイモンの覚醒と狂気について—	
ダイズ7Sグロブリンの精製	谷本信也
15世紀フィレンツェにおける子どもと乳母による子育て	前之園幸一郎
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第 42 輯 昭和63年(1988)11月刊

- 存在と主体の分離 橋 本 典 子
 —対象知を超えて—
- 源氏物語と憑霊現象 藤 本 勝 義
 —内的必然性と憑霊との二面性をめぐって—
- 『天稚彦物語』と七夕二星 出 雲 朝 子
 家 族 と 小 説 栗 坪 良 樹
 —横光利一の二、三の小説—
- 「成尋阿闍梨母集」本文批評のための基礎作業 岡 崎 和 夫
 H・ジェイムズ作品における女性たち 芦 原 和 子
 夏目漱石「倫敦塔」 加 納 孝 代
 —塔橋をめぐるレトリックの意味—
- 新聞の伊豆大島噴火災害報道 渡 辺 良 智
 —全国紙とミニコミ紙の内容分析—
- 青山学院女子短期大学における体力診断テストの結果に関する一考察(その3)
 大西千恵子・渡部かなえ・二宮恵里子
- 評伝フォークナー(I) 加 島 祥 造
 —少年期と青年期—
- 15世紀フィレンツェの「残酷な母親」について 前之園 幸一郎
 幼稚園教育における「幼児理解」の研究 志 賀 智 江
 —その1, 子どもサイドに立った幼児理解について—
- 戦前の東京における土地家屋の所有状況について 加 藤 由 利 子
 青山学院女子短期大学 研究成果一覧

第 43 輯 平成元年(1989)11月刊

- 院長・理事長大木金次郎先生追悼 学長 島 崎 通 夫
 内 在 と 超 越 橋 本 典 子
 —理性と夜警の意識—
- 藤原道長の「物の怪」観 藤 本 勝 義
 —「御堂閨白記」と「小右記」等との記事比較を通して—
- 木村聖哉「戦時下の山本周五郎」への反論 木 村 久 邇 典
 —作家像追及の視点をめぐって—
- 昭和文学史構想に関する私見 栗 坪 良 樹
 小説家と警世家の二面生活 野 村 喬
 —内田魯庵伝ノート(十一)—
- 「成尋阿闍梨母集」本文批評のための基礎作業(第Ⅲ類) 岡 崎 和 夫
 『使者たち』について 芦 原 和 子
 —とり逃した人生のチャンス—

死と再生	新美澄子
—『雨の王ヘンダソン』の円環構造について—	
評伝フォークナー(2)	加島祥造
—青年期と壮年期—	
マーチン・ルサー・キング Jr.	酒向登志郎
—黒人指導者への道—	
NNS-Initiated Modification and	
Self-Correction of Output: When Might it Happen?	Sandra S. Fotos
Language Transfer and	
Its Implication for Teaching EFL in Japan	Debra Mohri
十五世紀のフィレンツェ絵画にみられる子ども像について	前之園 幸一郎
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第44輯 平成2年(1990)11月刊

レヴィナスと歴史	橋本典子
キリシタン資料における「免許」の用法をめぐる	出雲朝子
「成母阿闍梨母集」本文批評のための基礎作業(第Ⅲ類)	岡崎和夫
昭和文学史の〈二重構造〉	栗坪良樹
—本多秋五・磯田光一をめぐる—	
塔と海の彼方に	小林正明
—村上春樹論—	
『學鐙』編輯と日露戦争の頃	野村 喬
—内田魯庵伝ノート(十二)—	
大鏡に於ける「物の怪」の方法と意義	藤本勝義
—栄花物語との叙述比較を通して—	
H・ジェイムズの手法の現代性(一)	芦原和子
—ホーソーンとの比較を通じて—	
喜劇としての人間	新美澄子
—ゾール・ペロー『ハーツォグ』—	
《ことのは》から《ロゴス》へ	高島敦子
—英語教育と日本語教育の接点—	
テオフィールド・トレとボードレール(1)	馬淵明子
新聞の杜説にみる朝鮮	渡辺良智
F・スコット・フィッツジェラルド論	宮内華代子
—「冬の夢」の中の「新しい女」—	
文明化と日本	梅津順一
—福沢諭吉と徳富蘇峰—	

- 15世紀フィレンツェにおける一商人の〈子どものイメージ〉……………前之園 幸一郎
 —ジョヴァンニ・ディ・パゴロ・モレッリの『覚書』を中心にして—
- 国際学習ネットワークを利用した言語・国際理解教育……………三宅なほみ・杉本 卓
 戦前における借地上貸家経営について……………加 藤 由利子
 —東京下谷区のM家の事例—
- 非イオン界面活性剤を配合した市販液体洗剤の生分解性……………小林泰子・阿部幸子
 青山学院女子短期大学 研究成果一覧

第 45 輯 平成3年(1991)12月刊

- 《語ること (le Dire)》と《語られたこと (le Dit)》……………橋 本 典 子
 —レヴィナスの言語論—
- 『玉塵抄』の東大国語研究室蔵本について (二)……………出 雲 朝 子
- 「成尋阿闍梨母集」本文批評のための基礎作業 (第V類)……………岡 崎 和 夫
- 二葉亭の死と魯庵の人生再航路……………野 村 喬
 —内田魯庵伝ノート (十三)—
- H・ジェイムズの手法の現代性 (二)……………芦 原 和 子
 —ホーソーンとの比較を通じて—
- 世紀末の青い星……………新 美 澄 子
 —ゾール・ベロー『サムラー氏の惑星』—
- LIKE と WANT の破格構文について……………高 野 嘉 明
- 『福翁百話』と『青淵百話』……………梅 津 順 一
 —とくに「市民的徳性」をめぐる—
- 14世紀イタリアにおける都市学校の成立とその発展……………前之園 幸一郎
- フロッピーディスクを用いた「ノート環境」の一例……………奥 村 健 一
 —短い文章を互に関連づけて書くために—
- ストレプトゾトシンで糖尿病にしたラットと
 自然発症高血圧ラットに対する調整豆乳飼育の影響……………石 井 孝 彦
 ゼインの酵素水解……………谷 本 信 也
 青山学院女子短期大学 研究成果一覧

第 46 輯 平成4年(1992)12月刊

- 死と時間構造……………橋 本 典 子
 —レヴィナスの時間論—
- 「成尋阿闍梨母集」本文批評のための基礎作業 (第VI類) A……………岡 崎 和 夫
- 人麻呂作品における「いにしへ」をめぐる……………西 澤 一 光
 —万葉集二六六歌に即して—
- 大正期デモクラシーの真髓……………野 村 喬
 —内田魯庵伝ノート (十四)—

源氏物語「竹河」巻論	藤 本 勝 義
——光源氏の世界の終焉——	
H・ジェイムズのロマンス理論(一)	芦 原 和 子
——作品における心象風景——	
ソール・ベローの生命観について	新 美 澄 子
——短編集『モズビーの思い出』をめぐって——	
ラカンの精神分析理論における〈自我はひとりの他者である〉という	
テーゼのもつ臨床心理学的および教育学的含意についての試論	森 泉 弘 次
アンドレーエの『化学の婚礼』	中 井 章 子
「ええじゃないか」の民衆運動(I)	渡 辺 良 智
オルスンとダンスの詩学 I	齋 藤 修 三
「チュアナのアポロニウス」を読む (1)	
マーチン・ルサー・キング Jr.	酒 向 登志郎
——夢——	
幼稚園児の食生活	石 井 孝 彦
16世紀イタリアにおける	
ソマスキ修道会とその孤児にたいする教育活動	前之園 幸一郎
「四都市信仰告白」の成立	石 引 正 志
日清戦後における徳宮蘇峰と内村鑑三	梅 津 順 一
——近代日本の道徳的基礎をめぐって——	
漢訳西学書『博物通書』と「電気」の定着	八 耳 俊 文
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第 47 輯 平成 5 年 (1993) 12 月刊

「成尋阿闍梨母集」本文批評のための基礎作業(第VI類) B	岡 崎 和 夫
人麻呂「安騎野の歌」の方法	西 澤 一 光
——虚構の創出と時間の贈与——	
偉大な読書人の晩年	野 村 喬
——内田魯庵伝ノート(十五)——	
平安朝の物の怪の様態	藤 本 勝 義
——「小右記」の記事を中心に——	
H・ジェイムズのロマンス理論(二)	芦 原 和 子
——作品における心象風景——	
アルチュール・ランボーにおける「人われを思う、(ゆえに)	
われはひとりの他者なり」	
(On me Pense, [donc] je est un autre) についての一考察 (一)	森 泉 弘 次
竹 久 夢 二	鈴 木 すゑ江
——ハイカラからモダンへ——	

- 行政法各論と教育行政法 中 里 英 夫
 ——各論位置づけの問題性と行政法各論の存在意義——
- 新聞の社説にみる一九八〇年代の韓国 渡 辺 良 智
 存在・神・論の克服 橋 本 典 子
 ——レヴィナスの倫理学の展開——
- 青山学院女子短期大学における体力診断テストの結果に関する一考察(その4)
 大西千恵子・中村浩子・小山さなえ・市川淑子
- オルスンとダンスの詩学 II 齋 藤 修 三
 「テュアナのアポロニウス」を読む (2)
- マルコム X 酒 向 登志郎
 ——激怒——
- 日本人学生の自己報告にみられる民族絶対主義的態度と
 民族相対主義的態度に関する調査 John E. Boylan & Jeanne M. Wolf
- ラットのカルシウム、リン、マグネシウム出納に
 及ぼす調製豆乳食と牛乳食の影響 石 井 孝 彦
- 幼稚園教育における「幼児理解」の研究 志 賀 智 江
 ——その2 教育実習を通してみた幼児理解の変容効果——
- 15世紀イタリアにおける Studia humanitatis の成立について 前之園 幸一郎
 福沢諭吉における士族の「資力の変形」について 梅 津 順 一
 ——伝統と近代のあいだ——
- 青山学院女子短期大学 研究成果一覧

第 48 輯 平成6年(1994)12月刊

- 森鷗外『阿部一族』の組織論 栗 坪 良 樹
 ——〈殉死〉という一大興行の行方——
- 『天草版平家物語』における女性のことば 出 雲 朝 子
 「成尋阿闍梨母集」本文批評のための基礎作業(第VI類)C 岡 崎 和 夫
 性差と主体を破壊するもの 小 林 正 明
 ——『土佐日記』小考——
- 上代文献における「常世」をめぐる 西 澤 一 光
 現代イギリスの女性作家たち 芦 原 和 子
- シュタンツェル理論によるバーナード・マラマッド
 『アシスタント』の語りの構造分析 新 美 澄 子
- アルチュール・ランボーにおける「人われを思う、[ゆえに]
 われはひとりの他者なり」
 (One me pense, [donc] je est un autre) についての一考察 (二) 森 泉 弘 次
- 道綱母の衣作り 鈴 木 すゝ江

教育裁判における教育権論の再検討	中 里 英 夫
——学力テスト最高裁判決を中心として——	
顔と無限者としての他者	橋 本 典 子
——超越性をめぐって——	
オルスンとダンスの詩学 III	齋 藤 修 三
「エジプトのマース」を読む	
女子短大生の昼食前後の体温差に及ぼす	
料理と体組成の影響に関する一考察	石 井 孝 彦
イタリア・トスカーナ地方の聖人伝における子ども像	前之園 幸一郎
浜沢栄一における武士道と実業道	梅 津 順 一
——「実験論語」の人物評論を通して——	
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第 49 輯 平成 7 年 (1995) 12 月刊

映画『カリガリ博士』の刺激と衝撃	栗 坪 良 樹
——日本表現主義序説——	
古代物語の視点と心中表現	藤 本 勝 義
——源氏物語・宇津保物語等をめぐって——	
石川啄木論 (その壺 序章)	岡 崎 和 夫
「文化侵略」か, 「人間解放」か	高 島 敦 子
——新しい英語教育の課題——	
竹 久 夢 二	鈴 木 すゞ江
——童画・童話をめぐって——	
教育法の解釈方法 (一)	中 里 英 夫
他者と倫理学	橋 本 典 子
——絶対的他者を中心に——	
専門図書館のサービス	前 園 主 計
Sustainable Development	LANDES, Haru
——Feminist Perspective (Part One)	
女子短大生の身体組成別自覚的健康度と食習慣	石 井 孝 彦
魚肉の軟化現象とコラーゲン	谷本信也・高橋秀子
フィレンツェにおけるインノチェンティ	
捨て子養育院の創設とその発展について	前之園 幸一郎
徳富蘇峰とキリスト教	梅 津 順 一
——「自己審査」を通した試論——	
知識空間の定量化に関する研究ノート	菊 池 純 一
ジャン＝パティスト・グルーズの	
「セプティムス・セヴェルス帝とカラカラ」について	大 野 芳 材
——ディドロの美術批評を通して——	
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第 50 輯 (記念号)

平成 8 年 (1996) 12 月刊

- 紀要五十輯を祝して 院長 深 町 正 信
 新世紀の知の状況に向けて 学長 栗 坪 良 樹
 紫式部の見た暦 藤 本 勝 義
 — 長徳二年具注暦をめぐる —
 戦後文学五十年の地平 栗 坪 良 樹
 『鼠の草子絵巻』諸本の画中詞における人称詞と敬語 出 雲 朝 子
 — 性差の観点を中心に —
 石川啄木論 (その貳) 岡 崎 和 夫
 — 『悲しき玩具』の表現特質 —
 古今集序注と十二世紀の言説空間 西 澤 一 光
 — 書物・歌学・王権をめぐる —
 『彼岸過迄』 佐 藤 泉
 — 物語の物語批判 —
 開かれた社会のための英語教育 高 島 敦 子
 自律基底的リベラリズムとその問題点 河 見 誠
 — H・ヘイリー『医療パターンリズムの限界』をもとに —
 教育法の解釈方法 (二) 中 里 英 夫
 「ええじゃないか」の民衆運動 (Ⅱ) 渡 辺 良 智
 『重学浅説』の書誌学のおよび化学史的研究 八 耳 俊 文
 レヴィナスと沈黙 橋 本 典 子
 — ブランショ論を中心に —
 大豆白絞油と水素添加パーム油の脂肪酸組成、ヨウ素価、酸価、
 過酸化物価及び見かけの消化率に及ぼす揚げの影響 石 井 孝 彦
 公共住宅の更新と居住者 加 藤 由 利 子
 さまざまな自己信念と抑鬱傾向の関係について 工 藤 恵 理 子
 — 法則定立的尺度によるセルフ・ディスクレパンシー理論の検討 —
 18世紀フィレンツェのインノチェンティ
 養育院における捨て子の養育について 前之園 幸一郎
 ボーランドの学校教育における民族舞踊の系譜 大 西 千 恵 子
 — 学習指導指針をもとに —
 ヴェットー、作品と社会 (1) 大 野 芳 材
 青山学院女子短期大学 研究成果一覧

第 51 輯

平成 9 年 (1997) 12 月刊

- 寺山修司 — その俳句論 栗 坪 良 樹
 石川啄木論 (その参) 岡 崎 和 夫
 三行詩の文体形成 = 三行詩人啄木の胚胎

本居宣長論	西澤一光
『近代』と『日本近代』夏目漱石の／による再検証	佐藤泉
『枕草子』の衣裳表現	鈴木すゑ江
新自然法論における実践の原理	河見誠
現象学から倫理学へ	橋本典子
—レヴィナスに於ける近接性と超越性—	
市販衣料用洗剤の洗浄力と有機汚濁負荷	阿部幸子
女子短大生の昼食前後の体温差に及ぼす身体組成の影響	石井孝彦
イタリア・ルネサンス期における伝統的	
家族の解体と子どもへの新しいまなざし	前之園幸一郎
ベートルのキリスト教福祉	今関公雄
—ナチ安楽死作戦への抵抗と福祉実践展開—	
子ども観の変遷と社会的養護	横堀昌子
能力に関する自己評価が自己の能力に関する	
情報収集行動に及ぼす効果の測定の方法論の検討	工藤恵理子
—自己評価と課題の診断性の認知の関係—	
ヴァットー、作品と社会(2)	大野芳材
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第 52 輯 平成10年(1998)12月刊

寺山修司—短歌の映像・映像的短歌	栗坪良樹
—歌集及び映画『田園に死す』について—	
三浦綾子氏の評伝的作品における一人称談話構成の採用について	岡崎和夫
……＜母を書く私＞から＜母になる私＞へ……	
文学史の記述とその社会的機能	佐藤泉
—戦後国語教科書の日本近代—	
ヘンリー・ジェイムズにおけるイギリス帰化への旅(一)	芦原和子
アルチュール・ランボーにおける「人われを思う、(ゆえに)	
われはひとりの他者なり」	
(On me pense, [donc] je est un autre) についての一考察(三)	森泉弘次
中国の日常食と行事食の意識について	橋本慶子
臓器移植法と現代日本社会	河見誠
M資金伝説	渡辺良智
道路瑕疵と過失相殺(二)	信澤久美子
—スリップに関する事故をめぐって—	
死と《存在とは別様に》	橋本典子
—ジャンケレヴィッチとレヴィナス—	
廃食用油を利用した手作り石けんの性状および環境影響について	阿部幸子

高校生の自覚的健康度と食習慣	石 井 孝 彦
比内鶏のコラーゲンより見た肉質	谷 本 信 也
幼稚園教育における幼児理解と研修モデル	志 賀 智 江
フィレンツェ・インノチェンティ捨て子養育院の 創設初期における子どもたち	前之園 幸一郎
新興住宅都市における子育ての実態及び 子育て支援の現状と課題に関する一考察	浅 見 均
——多摩ニュータウンにおける子育てに関する実態調査から——	
内集団・外集団に対する自分の意見・態度の 投影プロセスの実証的検討	工 藤 恵理子
——集団間の意見分布推定と集団間関係——	
青山学院女子短期大学における体力診断テストの結果に関する一考察(その5)	大西千恵子・伊坪有紀子・鈴木美恵子
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第 53 輯 平成11年(1999)12月刊

芥川龍之介 一九二二・一	佐 藤 泉
——日本文化論の文体について——	
村上春樹と映画	栗 坪 良 樹
作品探検・中島みゆき(その一)	岡 崎 和 夫
詞が小説的世界をかかえこんでいるという感触について	
マスコミが事件をつくった	渡 辺 良 智
——「イエスの方舟事件」の報道をめぐって——	
レヴィナスに於ける外在性	橋 本 典 子
——ユマニズムと超越——	
ラットにおける頻回揚げ油の見かけの消化率と血清成分に及ぼす影響	石 井 孝 彦
幼児の初期統語法の発達過程	伊 部 泰 子
ルネサンス期フィレンツェにおける子ども像をめぐる諸問題	前之園 幸一郎
幼児の宗教心について	今 関 公 雄
——キリスト教信仰からの一考察——	
現行幼稚園教育要領下に於ける「園行事」のあり方についての一考察	浅 見 均
——幼稚園に於ける園行事「運動会」を中心として——	
オーストラリアの児童養護と我が国の課題	横 堀 昌 子
脅威を受けた次元(領域)とは無関連な次元における下方比較	工 藤 恵理子
——より柔軟な下方比較像へ——	
本学学生の体力・健康意識・体脂肪率測定の結果報告	森下春枝・磯部 桂・下坂佐知・川口和泉
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第 54 輯 (記念号) 平成12年 (2000) 12月刊

開学五十周年と紀要第五十四輯の発行を祝って	院長 深 町 正 信
短期大学開学五十周年に思う	学長 阿 部 幸 子
文学は生き延びられるか	栗 坪 良 樹
— 又は高等教育とは何か —	
作品探検・中島みゆき (その二)	岡 崎 和 夫
……「詞」の連続、「詞」の重層……	
エイブラハム・ジョシュア・ヘッセルと	
マーティン・ブーバーにおけるハシディズム理解の差異 (一) …森 泉 弘 次	
武井武雄のお洒落な動物たち (一)	鈴 木 すす江
苦痛と苦悩と安楽死	河 見 誠
— 重度の身体障害者ケリー・ナイルズの事例を手がかりに —	
モーリス・ズンデルの形而上学	橋 本 典 子
異界巡りの旅路	石 田 美穂子
— E. M. フォースターの「イタリヤ」観の変容 —	
カプサイシンと食塩摂取が自然発症	
高血圧ラットの血圧に及ぼす影響	石 井 孝 彦
杜仲投与によるアユの肉質改良	谷本信也・目鳥幸一・高橋周七
塩蔵クラゲの加熱条件とテクスチャー	松本美鈴・福永淑子
「幼児の初期統語法の発達過程」の背景となった諸理論	伊 部 泰 子
『ピノッキオの冒険』における人間論	前之園 幸一郎
— いのちの誕生をめぐる —	
保育所問題の福祉論	今 関 公 雄
— 措置から契約の激動の中で —	
保育者の資質に関する一考察	浅 見 均
— 保育現場から見た保育者の資質 —	
福祉現場におけるグリーンワーク実践の可能性と必要性	横 堀 昌 子
ヴェットー『シテール島の巡礼』(ルーヴル美術館) 再考	大 野 芳 材
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	
紀要総目次	